

糖尿病



▶20

天満 仁

県糖尿病専門医会代表

妊娠を経験した人や妊娠中の家族がいる人は「妊娠糖尿病」という言葉を一度は耳にしたことがあるだろう。徳島県糖尿病専門医会代表の天満仁(51)に、妊娠糖尿病の危険性や妊娠中の糖尿病治療法などについて聞いた。

「妊娠糖尿病とはどのような病気なのでしょうか。厳密に言うと、妊娠糖尿病とは妊娠してから初めて発覚または発症した、糖尿病に至っていない軽度の糖代謝異常のことです。妊娠糖尿病より重症度の高い場合は「妊娠中の明らかな糖尿病」と言い、妊娠糖尿病には含まれません。

「妊娠すると糖尿病になりやすくなりやすくなったり糖尿病が悪化したりするのですか。妊娠中に胎盤から分泌される物質はインスリンの作用を弱め、血糖値が上昇してしまうため、糖尿病になります。既に糖

尿病になっている人は網膜症や腎症などの合併症が悪化やすくなります。

妊娠しない方が良いのでしょうか。

いいえ、決してそんなことはありません。糖尿病の女性が妊娠希望の場合、主治医と相談して血糖値のコントロールを行い、合併症の症状が安定しているかを十分に確認してから妊娠してもらうことになります。

もし血糖値が高いまま妊娠してしまうと、母体の合併症が急激に悪化したり、胎児の先天性異常や死産、難産などの確率が高くなったりします。母子両者ともに健健康を守るために、計画的な妊娠が不可欠です。

子どもの先天性異常の確率で言えば、妊娠後に治療を開始した場合は9・0%平均である「HbA1c(ヘモグロビンエーワンシー)」

(聞き手=三浦麻衣)
||月1回掲載

と高頻度です。ところが妊娠前に治療を始めた場合は2・1%。糖尿病でない妊娠さんは1・7%なので、きちんと妊娠前から治療をしていると正常妊娠の場合とあまり差がないことが分かります。糖尿病患者でも、病状をコントロールして計画的に妊娠すれば問題ないのです。そのため、家族に糖尿病患者がいる、最近体重が増加したなどの危険因子がある場合には妊娠前の血糖検査が必要です。

「妊娠前に糖尿病だと気が付いていない場合、妊娠糖尿病はどうなにすれば分かるのでしょうか。妊娠初期と中期に、普通に食事を摂取した状態で血糖を測る「随时血糖」など、全ての妊婦が受けるスクリーニング検査があります。この検査で陽性だった人は、ブドウ糖液を飲んで時間を追って血糖値を調べる「糖負荷試験」を受け、妊娠糖尿病が診断されます。1~2カ月の血糖の平

均値や空腹時血糖、糖尿病網膜症の存在などから、妊娠糖尿病より重症である「妊娠時の明らかな糖尿病」という病名が付くことがあります。

「妊娠中の糖尿病はどのように治療するのですか。基本的に食事療法になります。散歩など通常の妊娠と同じくらいの運動は推奨されますが、それ以上の運動が良いわけではありません。

薬は使わず、必要があればインスリン投与で血糖値をコントロールすることになります。ほとんどのインスリンは世界中で妊娠中も安全に使用されているので、心配はいりません。

妊娠糖尿病は出産後に改善することが多いのですが、妊娠糖尿病の妊婦は、正常な妊婦に比べて将来糖尿病になる確率が約7倍も多いと報告されています。妊娠糖尿病になった場合は産後も定期的に検査を受けすることが大切です。

妊娠糖尿病?

- 妊娠中は糖尿病になりやすく、糖尿病患者の合併症も悪化しやすい
- 妊娠前に糖尿病を患っている場合は血糖値コントロールなどを十分に行って主治医の判断を得てから妊娠する
- 妊娠糖尿病と診断された場合は、産後も定期的に検査を受ける